**第１部　公共の扉**

部分サンプル　※本資料はサンプルのため、内容が変更される可能性があります。あらかじめご了承ください。

**第２章　公共的な空間における人間としてのあり方・生き方**

**１　次の文章を読み、あとの問いに答えよ。**

ａ古代ギリシャの哲学者である　ⅰ　は、「不知の自覚（無知の知）」をみずからの思想の基礎にしたことで知られる。「不知の自覚」とは、Ａである。確かに、私たちは、ともすると物事に対する表面的な理解で、何かを「分かった」ような気になってしまいがちである。しかし、その思い過ごしがかえって私たちをｂ真の知から遠ざけているのであろう。

現代において、私たちは多様な他者と関わって生きている。ひょっとすると、そうした他者を理解することは、他者について「何も知らない」「何も分かっていない」ということを認識するところから始まるのかもしれない。「何も知らない」からこそ、私たちは素直に他者と向き合い、他者との接触を通じて他者を「学ぼう」とする。そこには、抽象的な思考ではなく、『論語』の中に見いだされるように、他者との日常的な交わりの中に人の道を見いだそうとした古代中国の　ⅱ　の態度とも相通ずるものがある。よく学ぶとは、すなわち、よく生きることなのである。どちらが手段でも、どちらが目的でもないだろう。

**問１**　文章中の　ⅰ　・　ⅱ　に入る人名を、それぞれ答えよ。

**問２**　下線部ａに関連して、古代ギリシャのアリストテレスは、人生の最高の目的、最高善を何であると考えたか。漢字２字で答えよ。

**問３**　文章中の空欄Ａに入る記述として適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア.　最高の知者として、無知である民衆に、論争に勝ち抜くための巧みな弁論術を教え伝えることができるということ

イ.　最高の知者として、無知である民衆に、問答法を通じて人生における深遠な知恵を授けることができるということ

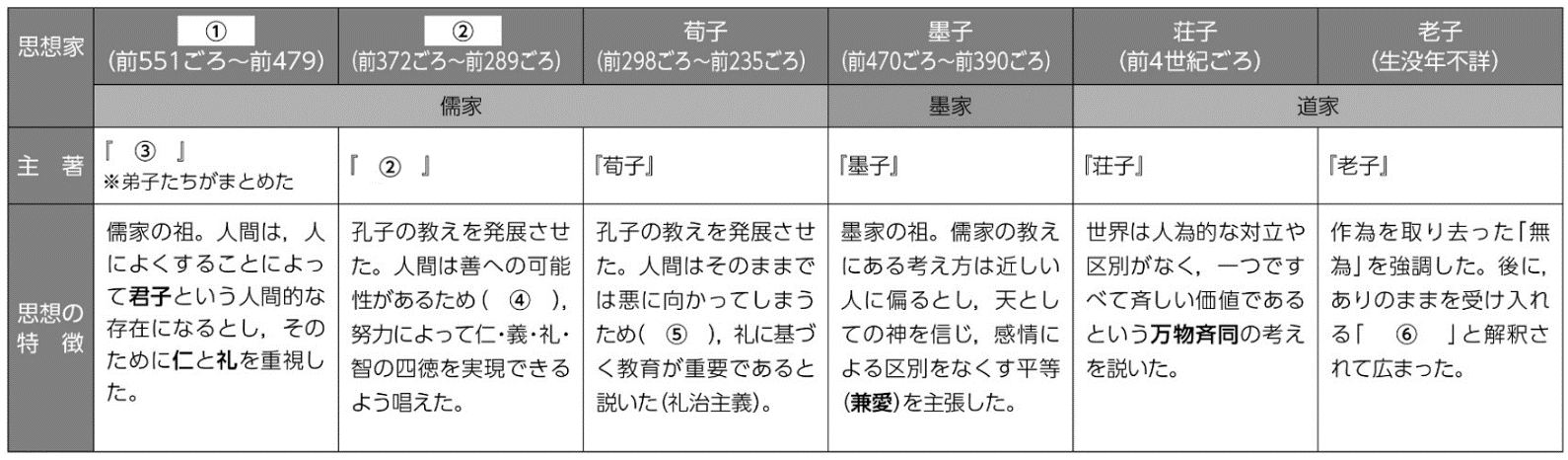
ウ.　善美の事柄に対して自分は何も知らないが、善美の事柄以外の真理を知っている点で知恵があるということ

エ.　善美の事柄に対して自分は何も知らないが、知らないということを知っている点で知恵があるということ

**２　次の文章を読み、あとの問いに答えよ。**

人とは何か。簡単に答えの出ない問いである。むしろ、AI（人工知能）や医療技術が発達した今だからこそ、先人たちにヒントをもらうことが必要だろう。古代ギリシャで哲学者たちが活躍したのとほぼ同時期に、古代中国ではａ諸子百家とよばれる人々が登場した。彼らは人を超えた天との関係からだけでなく、生まれながらのあり方（性）や感情（情）からも、ｂ人とは何かという問いについて議論を重ねた。

**問１**　下線部ａに関連して、次の表の①～⑥に当てはまる語句を、それぞれ答えよ。



部分サンプル

**◆問２**　下線部ｂに関連して、Ａ～Ｄの４人の生徒が考えたことを話し合っている。人とは何かという問いを考える姿勢として適当でないものを、次の**Ａ**～**Ｄ**から一つ選び、記号で答えよ。

Ａ.　孔子が説いた「礼」は、他者を大切にする気持ちの表れとして、今も大切にされているね。

Ｂ.　人間が生まれながらに備えている性から「人とは何か」を考えることもできるね。

Ｃ.　目上の人や近親者などを区別せず平等に接するという墨子の「兼愛」も大切だと思うな。

Ｄ.　こうして考えると、諸子百家の時代は天と人間が垂直的につながっていると考えられていたんだね。

**３　次の文章を読み、あとの問いに答えよ。**

「正義」と言うと、小さいころによく見た「正義のヒーロー」みたいで、子どもっぽいと思う人もいるかもしれない。しかし今、この「正義」のあり方が、社会で真剣に議論されている。

例えば、「いじめ」は決してあってはならない。だからといって、いじめた側を懲らしめるだけが「正義」だろうか。いじめのない、ａ誰もが幸福に過ごせるための「正義」をどう実現するか、一人一人が考える必要がある。

アメリカのハーバード大学で、1,000人もの学生を前に「正義」についての対話を試みたのがマイケル=サンデル教授である。彼はｂ「金持ちに高い税金を課し、貧しい人に再配分することは公正なことか」など、「正解」が一つに定まらない問いを学生に投げかけ、その様子は日本でも紹介され、反響をよんだ。「正義」を考えることは、自分がよく生きたいという願いを実現するだけでなく、他人のよく生きるという願いとどう両立するか、つまり、社会において他人と共に生きるために、自分の幸福だけでなく他人の幸福をどう考えるかということでもある。自分の「正義」だけでも、相手の「正義」だけでもない、ｃ他者と共に生きることの「正義」について考えることが大切であり、現代社会に生きる私たちには、そのような繊細な態度が求められている。

**問１**　下線部ａに関連して、以下の問いに答えよ。

①ベンサムやミルが主張した、快楽としての幸福が社会全体として増大することがよいという考え方を何というか。

②①の考え方における、「快楽としての幸福が社会全体として増大すること」を何というか。

**◆問２**　下線部ｂに関連して、税金の再配分について、公正、または公正でないと考える理由として適当なものを、次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えよ。

部分サンプル

ア.　すべての人に平等に豊かな暮らしを保障すべきなので、税金の再配分は公正でない。

イ.　金持ちになった人の努力こそ尊重すべきなので、税金の再配分は公正でない。

ウ.　誰もが人として最低限の生活を送る権利があるので、税金の再配分は公正である。

エ.　社会保障や公共事業も税金で行われているので、税金の再配分は公正である。

**問３**　下線部ｃに関して、①～⑤の主張をした哲学者を、次のア～オからそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。

①西洋の理性は、自分の利益を達成するために他者を管理・支配する道具的理性となった。

②ナチズムのような絶対悪を生まぬよう、他者と共に意見交換し合える公共領域が必要だ。

③他者とコミュニケーションを交わす対話的理性によって、互いの合意形成を目指すべきだ。

④自由・平等・友愛を大切に、社会や経済の不平等を制度として正す公正としての正義が必要だ。

⑤現実の暮らしにおける人々の必要（ケイパビリティ）を満たし高めることが幸福につながる。

ア.　ロールズ　　　　　　　　　　　イ.　アーレント　　　　ウ.　セン

エ.　ホルクハイマー、アドルノ　　　オ.　ハーバマス